５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.550-551
枝打ちを行いました、最初は恐る恐るでしたが、、

昨年を振り返って

昨年も一昨年と同様、新型コロナの感染拡大のなかで、三密回避のため、新年会の取りやめ、書面決議方式での定時総会開催の他、定例活動は個人の自主的判断による活動をベースに会の運営を行いました。

しかし、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言に伴う定例活動の一時的な中止決断を余儀なくされたこと、相模原市の桜まつり、地元小原の各種イベント、体験学校等当会が主催する活動の中止等、定例活動以外にも大きな影響が出た厳しい一年となりました。

そうした状況の中でも、一部会員及び学芸大附属中学の学生の継続的な参加、地元北相中学の学生、学芸大の社会教育実習生の受け入れ等もあり、定例活動日は１０～２０人とほぼ通常に近い人数で内容のある活動が出来たのではないかと思っています。

また、ウェブでの広報、ニュースレターの発行、さがみはらSDGｓアワー

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

ド2021への応募・受賞、東京ビックサイトの エコプロダクツ展出展(東京学芸大Expalayground推進機構と共同)等を通じ、対外向けの効果的な発信が出来たこと、懸念されたコロナ感染に関しても問題なく一年を終えられたことは皆様のご協力のおかげと感謝しております。

オミクロンウイルス株の感染が急拡大しており、引き続き慎重な行動が求められ、今後を予測するのは難しい局面ではありますが、地元小原との協力による地域活性化への貢献という当会の目標に加え、小金井市環境政策課から市民向け体験の受け入れを打診されており、新たな活動となる可能性があります。当面多くの課題はありますが、力を合わせて頑張りましょう。

最後になりましたが、当会の存続と活動維持のためには、当会活動を支援して頂いている団体のご支援が欠かせません。厳しい環境下とは思いますが、引き続きご支援いただけたらと思っております。

川田　晃（本会、代表代行）

【定例活動報告】
知足の森

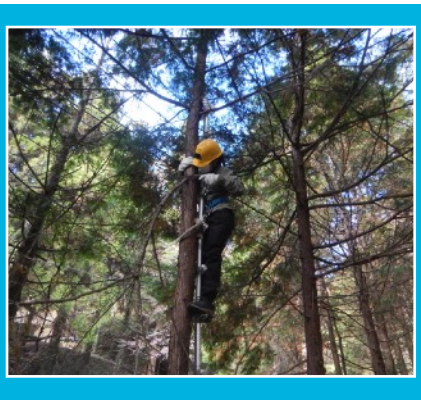
第１日曜日の活動では「枝打ち」という作業をしました。めったに体験できることではないのでとても嬉しく思いました。私は枝打ちを行うのが初めてで先生がお手本を見せるなか「そんなに高くまで登れるのだろうか」と少し不安に思いました。桜井先生の説明では枝打ちを行った際になるべく木に沿って枝を残さず切ることで、木が再生するときにそれを覆うように再生し、「生き節」として材木になると仰られました。木も私たちと同じように再生して傷を埋めていくのだなと感じました。まずは、滑ると危ないので笹(下草)を刈りました。その後枝打ちをしました。

最初は一歩一歩おそるおそる登っていましたが段々と慣れていき、両手を離して下の人に手をふったり遠くを見て景観を楽しむ余裕も出てきました。唯一、大変だった点としては、はしごの反対側にある枝でした。左手に持ち変える等してうまく対処することが出来ました。

木に蔦が絡み付いていてそれを剥がしてみると蔦から木の外側の面にむけて小さい根がでていました。だからこんなにピッタリ張り付けるのだなと思いました。蔦は人間や木から見れば邪魔なものでしかありませんが、蔦も必死に生きているのだなと思い、面白いなと感じました。

次回も新しい発見があると良いなと思います。

古賀　愛乃（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）



第３日曜日は人数が少なく、大人も少なかったため、木を切ることはせずに、ゆず集めや荒れた低木を切りました。ゆず集めは東家前のところで行いました。落ちているゆずを拾ったり、木登りをして取ったり、棒でつついたやつを取ったりしました。ゆずの木には鋭い棘があることに驚きました。また、ゆずをとっている最中、ゆずのいい香りが漂ってきました。とったゆずは階段に並べたり、枝を刺して雪だるまのようにしている人など、終始、いつもと違いのんびりとした雰囲気がありました。

そのあとは、綿のようなものが先端にある木を中心に、ノコギリや枝切り鋏で切って、すっきりさせました。切り終わるといい景色を見ることができました。

また他の人の中では、階段の手すりからはみ出している生垣の枝の先を切って綺麗にしている人もいました。今回は今年最後の活動で普段とはジャンルの違う作業でしたがたまにはこんなものがあってもいいと感じました。

金子　愛斗（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）

桜井尚武の森のコラム

「サカキ(*Cleyera japonica*)とヒサカキ(*Eurya japonica*)」

図1　サカキ

20070914大雄山小田原

共にツバキ科の小高木で常緑、樹林内の中下層を占めますが上層の開けたところの樹高は10m位になります。サカキは茨城県・石川県以西の本州、四国、九州、朝鮮半島南部、中国、台湾、ヒサカキは岩手県・秋田県以南の本州、四国、九州（西表島まで）、小笠原、朝鮮南部に分布します。

サカキの葉は全縁で枝の左右に2列互生で付きます。若枝の先端の冬芽は鋭くとがった先端を持つ大きく湾曲したかぎ爪状で本種を見分けるポイントです（図1）。白色の両性花を夏に開き、秋に黒紫色の液果をつけます（図2）。ヒサカキも小さいですが先の尖った湾曲したかぎ爪状の冬芽を有します（図3）。葉は枝の左右に2列互生につきますが細かい鋸歯がありサカキと区別できます。花は雌雄異株ですが両性花を付ける株もあり、サカキより多数付きます（図4）。液果は秋に紫黒色に熟します。

図2　サカキの花(20200615)

と果実(20201129)南千住

サカキは榊と書きますがこれは日本で作られた国字だそうで神様と関係が深いことを示しています。神とヒトとの境の木、栄の木、賢木などが語源とする説がありますが、地方により神に捧げるためのその土地に根ざした木があったものがやがて現在のサカキに集約されたというもののようです。神の降臨を「俟つ」依代（よりしろ）の松の葉が尖っているように神が降臨する所は尖った所という信仰があり、サカキの鎌の先のような尖った冬芽がそれに充てられたという記述もありました。サカキは密には生えずまばらです。また、関東より北方には見られないため、ふんだんに生えていて採集しやすくかなり北方でも見られ栽培も容易なヒサカキが「サカキ」として売られるのが普通になっています。サカキではないとして非榊という字を宛てられたりしたヒサカキが、いつの間にかまあいいやという風になるのも時勢でしょうか。

図3　ヒサカキ

20100711戸塚

桜井　尚武（本会、会員）

図4　ヒサカキの花

20190328皇居東御苑

【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

１２月半ばに、Explayground関係でご紹介いただいた川崎にあるVUILDさんで、Shopbotという機械を使わせてもらいました。Shopbotでは、データ通りにドリル（ルーター）が木を削ることができます。この機械を使って、看板の試作品を作りました。今回は看板の文字を浮き出す・へこませる両方のパターンを試しました。今後の課題としては本番用の文字サイズ、枠組みの再検討・看板の土台を考えるなどが挙げられます。難しいのは、例えば「こ」の上のハネの部分の細くなっているところ、ここがドリルの刃の直径よりも小さい動きができないのでデータ上で工夫をしておく必要があります。完成品は、学校説明会などで使うウェルカムボードです。２月中には再びVUILDさんにお邪魔する予定です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン